

研究分野		授業科目名				科目責任者	
生化学系分野		創傷病態生化学特論Ⅰ・Ⅲ				(戎谷 昭吾)	
開講年次		共通/専攻/選択		単位数			
1,2,3,4		特論Ⅰ：必須専攻, 特論Ⅲ：選択		特論Ⅰ：4(2/年), 特論Ⅲ：1/年			
目的							
(1) 生化学的な研究の意義を理解するために、創傷治癒過程について最新の知見を得る。 (2) 生化学的な研究の意義を理解するために、急性創傷の病態と治療について最新の知見を得る。 (3) 生化学的な研究の意義を理解するために、慢性創傷の病態と治療について最新の知見を得る。 (4) 皮弁における微細血管の検討、新たな皮弁手術の開発について検討を行う。							
授業到達目標							
(1) 創傷の種類について説明できる。 (2) 創傷治癒のメカニズムについて説明できる。 (3) 創傷治癒を遅延させる局所的要因と全身的要因について説明できる。 (4) 創床環境調整(Wound bed preparation)理論について説明できる。 (5) 熱傷を診断して治療できる。 (6) 顔面外傷を診断して治療できる。 (7) 四肢外傷を診断して治療できる。 (8) 褥瘡を診断して治療できる。 (9) 糖尿病性足病変を診断して治療できる。 (10) 末梢動脈疾患を診断して治療できる。 (11) 静脈性潰瘍を診断して治療できる。 (12) 解剖体を用いた皮弁血流に関する手技・方法を説明できる。							
授業計画							
回数	月日	曜日	時間	担当者	区分1	区分2	授業内容
1	毎週	水	15:00-16:30	戎谷 昭吾	講義	[抄読会・ 症例検討会]	形成外科における患者からその病態と治療方針を説明し討議を行う。 形成外科に関する最新の知見を紹介し、それに対する考察・討議を展開する。 [場所:本館棟5階形成外科学実験室]
評価方法							
【特論Ⅰ】 (1) 1年間※で、講義は30時間出席し、科目責任者から履修手帳に出席印をもらい、提出する。 (2) 1年間※で、論文紹介または症例発表を2回行い、その要約2編を提出する。 【特論Ⅲ】 (1) 1年間※で、講義は15時間出席し、科目責任者から履修手帳に出席印をもらい、提出する。 (2) 1年間※で、論文紹介または症例発表を2回行い、その要約2編を提出する。 ただし、特論Ⅰ・Ⅱで紹介したものと異なる論文(症例)であること。 特論ⅠとⅢの同年度での重複受講は不可とする。 ※1～3年生は2月末まで、4年生は11月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。42・43頁：単位履修方法参照。							
課題(レポート等)に対するフィードバック							
紹介論文の要約について、添削して返却する。							
教科書							
ISBN-9784771903982, 創傷のすべて - キズをもつすべての人のために, 市岡 滋(監修), 克誠堂出版, 2012							
参考書							
ISBN-9781451109559, Grabb and Smith's Plastic Surgery (7th Edition), Charles H. Thorne(監修), Lippincott Williams & Wilkins Health, 2012							
準備学習(予習・復習等)							
関連文献を事前に約1時間程度収集し、内容を理解しておくこと。 復習としては講義後に約1時間程度内容の分析を行い、その時点での疑問点を列挙し、その解決に取り組む。							
修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連							
課題を探究し、仮説立脚、検証に至るまでの科学的方法論、思考法を獲得する。							
注意事項・メッセージ							
各講義で実際の症例を提示し、臨床的な診断や治療についてディスカッションを行うので、議論に加われるように入念に準備をして、積極的に発言して欲しい。							